



(株)コサカ技研
総務部 工藤 真梨子

— おんでやぁんせ 八戸！—

1. はじめに

株式会社コサカ技研 総務部の工藤です。上下水道コンサルタント協会には昨年度に入会させていただきました。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。今回の寄稿では、弊社の本社があります青森県八戸市の魅力についてご紹介いたします。

2. 八戸市の紹介

八戸市は太平洋を臨む青森県の南東部に位置し、岩手県から続く三陸リアス式海岸となだらかな台地に囲まれ、東・西・南には山々が遠望でき、自然豊かで、海山の恵みを楽しんでいます。北国・青森県にありながら降雪量は非常に少なく「氷都」としてスケート・アイスホッケーが盛んです。

また、日本一のイカの水揚げ量や脂ののった前沖サバなどを誇る漁業、北日本を代表する国際物流拠点としての商業、新産業都市に指定される臨海工業との、三つの顔を併せ持つ港湾都市でもあります。

2011年の東日本大震災では特に沿岸部が大きな被害を受けましたが、復旧期、再生期、創造期を含む約10年間の「八戸市復興計画期間」を経て、現在は新たな魅力の創造と発信に取り組んでいます。

ここでは、太平洋に面する八戸市『種差海岸』の魅力についてご紹介させていただきます。

「国」名勝 県立自然公園 『種差海岸』

『種差海岸』は「蕪島」から延長12kmに及ぶ海岸であり、その後背地を含めた880haが国の名勝に指定されています。三陸リアス式海岸の北端として、荒々しさと緩やかさを同時に楽しめる海岸線には遊歩道が整備されており、トレッキングコースとして県内外の方々に利用されています。



また、2013年5月には東日本大震災からの復興を目的のひとつとして創設された「三陸復興国立公園」に指定され、同年9月には種差海岸を含む青森、岩手、宮城3県にまたがる沿岸地が「三陸ジオパーク」に認定されました。

見る場所や時間によって様々な表情が見られる『種差海岸』ですが、その中でも特にオススメのスポットをご紹介します。

① 蕪島（かぶしま）

ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されている「蕪島」は、間近でウミネコの営巣を見ることができる国内唯一の場所です。約4万羽が営巣のために春早く来るので春を告げる鳥として親しまれています。5月頃にはたくさんの菜の花が咲き、ウミネコと青空、黄色い菜の花のコラボレーションが素敵です。



また、蕪島の頂上に建つ「蕪島神社」は2015年の火災により焼失しておりましたが、多くの方からの支援があり2019年に再建しました。現在は一般参拝も可能になり、観光客はもちろんのこと、再建を祝う地元の人でも賑わっています。蕪島の「蕪（かぶ）」と「株」が同じ読みであることから、株価と人望の「かぶ」が上がるご利益があると言われているそうです。過去には参拝者の中から宝くじの高額当選者が出たという話もあります。



② 葦毛崎展望台（あしげざきてんぼうだい）

「蕪島」の先には、突き出た砦のような形の「葦毛崎展望台」があります。西洋の城のような雰囲気を感じ出す展望台からは太平洋を眺望できるほか、眼下には季節ごとに咲き乱れる草花を楽しむことができます。ふもとの売店で販売しているソフトクリームは濃厚なミルク感が味わえる絶品で「青森県三大ソフトクリーム」のひとつともいわれているそうです。休日は展望台も売店も人足が絶えない人気スポットです。

ここが種差海岸の海岸線を楽しむ遊歩道の起終点になっており、400種類にも及ぶ季節ごとの高山植物を平地で楽しめる貴重な場所や、鳴き砂で知られる「大須賀海岸」の砂浜、「淀の松原」と呼ばれる3kmにわたる樹齢80年以上の松林へと続きます。



葦毛崎展望台からの眺め

③ 種差天然芝生地（たねさしてんねんしばふち）

遊歩道の起終点の反対側、「種差天然芝生地」までは、荒波の浸食によってできた海食崖と広大な砂浜や、自然の芝生が自生する芝原など、変化に富んだ独特の景観が広がります。

海岸線まで天然芝が広がる「種差天然芝生地」は全国的にも稀な景勝地です。海沿いの険しい岩礁と緑が一面に広がる天然芝のコントラストは言葉にしがたい美しさがあります。近年、5月～9月の毎週土曜日早朝には「種差朝ヨガ」が行われるようになり、早朝の爽やかな空気と波音を感じながら心身ともにリフレッシュできる八戸の新たなイベントとして多くの人で賑わっているようです。

「種差天然芝生地」の先には手付かずの自然をたっぷり残した海岸線や漁港などが続き、サーフィンを楽しむ方々や釣り客、新鮮な魚介類を買い求める人で賑わっています。



3. おわりに

今回は、八戸市の水辺であり全国的にも有名な『種差海岸』にスポットを当てて八戸市のご紹介をさせていただきました。他にも全国最大規模の朝市である「館鼻岸壁朝市」や、幅・高さが最大で 11m にもなる絢爛な山車が運行される「八戸三社大祭」など、八戸市には様々な歴史や文化がまだまだあります。今回の寄稿を通して皆様に八戸市の魅力を紹介するだけでなく、改めて地元八戸を深く知る機会をいただけたことに感謝申し上げます。

タイトルの「おんでやあんせ」は、青森県南部地方の方言で「いらっしやい」という意味です。新型コロナウイルスの流行により全国的な往来が難しい時期ではありますが、是非、何度も八戸市に足を運んでいただき、今回ご紹介しきれなかったたくさんの魅力を肌で感じていただければ嬉しいです。

「八戸さ、おんでやあんせ〜！」